



7月からの異常な高温や雨不足で、米の不作、野菜や玉子、生活用水の不足まで懸念がでています。反面特定の地域には線状降水帯での水害や土石流被害も、また世界各地にも熱波や洪水災害が頻発しています。「異常気象」が「通常気象」になってしまったようです。今回は「世界で一番美しい街角」といわれることもあるチェスキー・クルムロフに12年前、大雨直後に行ったときの写真を紹介します。道草ギャラリーその58「ドナウ川の洪水」と同じ旅行で立寄りました。

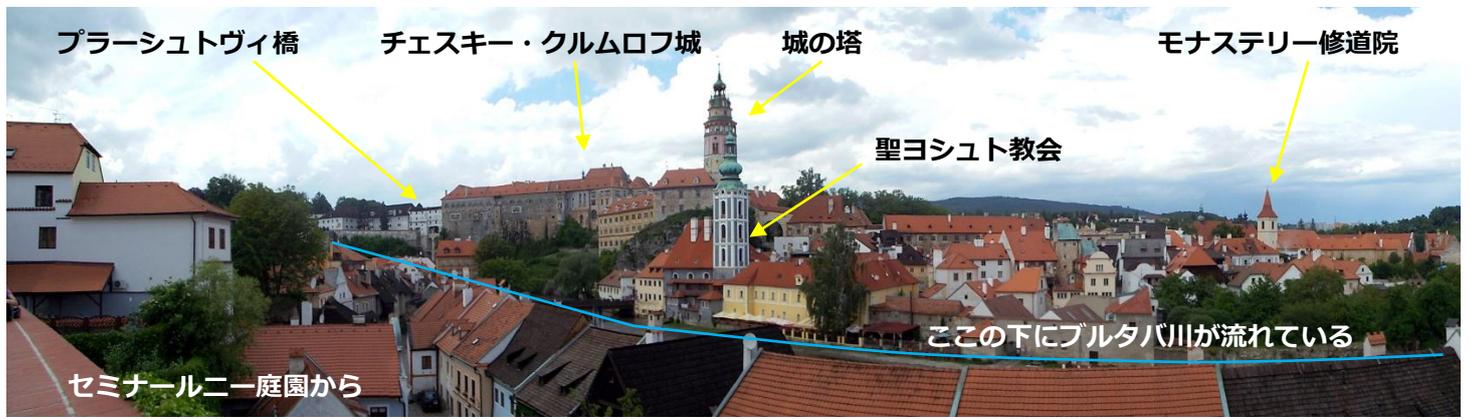
「チェスキー」はチェコ語で「ボヘミアの」という意味で、「クルムロフ」は「川の湾曲部の湿地帯」を意味するそうです。日本の地名にしたら「大曲」でしょうか。オレンジ色の屋根とパステルカラーの中世の街並みが残っていて、街の中やその周辺郊外で幾度も川が大きく蛇行しています。川はボヘミアが源流でチェコ国内最長のブルタバ川です。プラハの先でエルベ川に合流し、ドイツのドレスデンやハンブルクを通過して北海に流れ出しています。スメタナの交響詩「わが祖国」の中のあの有名な「モルダウ」（ドイツ語名）がこの川です。少し水位が下がりようやく観光コースが開かれたばかりの時でしたが、川幅一杯の溢れそうな濁流が流れていました。上の写真はチェスキー・クルムロフ城内のプラーシュトヴィ橋より南東方向を撮ったもので、中央奥の塔は聖ヴィート教会です。あの「モルダウ」からも、普段は力強くももっと穏やかな流れなのだろうと思いました。なお橋はMOSTで、同じスラブ語系のポーランド、クロアチアやボスニア・ヘルツェゴビナでも同じでした。1992年に「チェスキー・クルムロフ歴史地区」として世界文化遺産に登録されています。



溢れそうな流れ

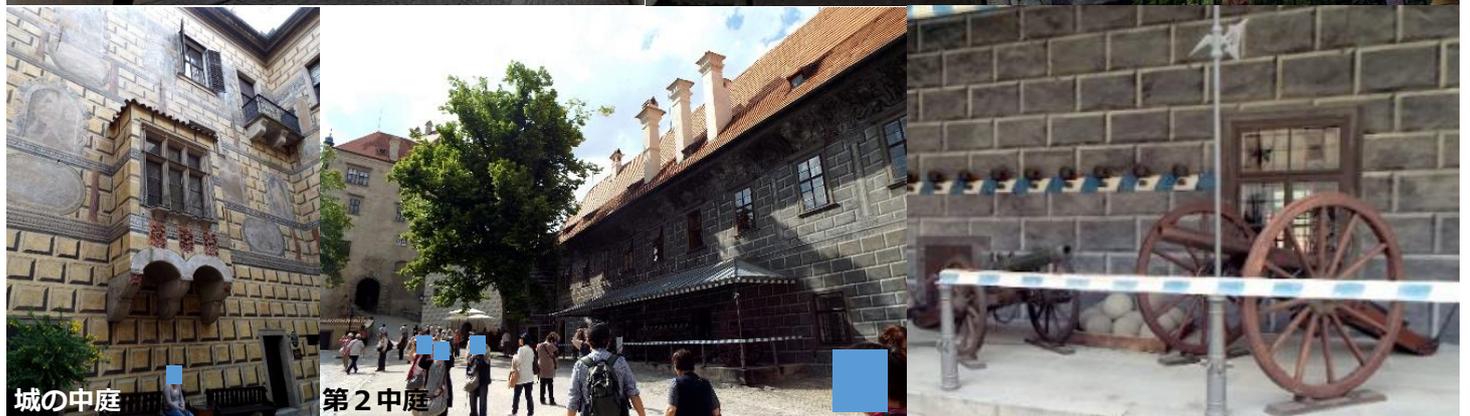


聖ヨシュト教会



13 世紀後半から町や城の建設が始まり領主はボヘミアの貴族ローゼンベルク家でしたが、17 世紀始めに神聖ローマ帝国となり、その後エッゲンベルク家の時代にバロック様式の建物が増加、18 世紀にシュヴァルツェンベルク家が相続し城もバロック様式に、さらに 19 世紀になってネオ・ゴシック様式に改築。1867 年にはオーストリア・ハンガリー帝国の一部、第 1 次世界大戦後にチェコスロバキアとなり、1920 年に町名もクルマウからチェスキー・クルムロフに改名。ナチス・ドイツ時代にはドイツ領に組込まれ、第 2 次大戦後にチェコスロバキアに復帰しドイツ系住民が追放されたとのことです。国としては 1968 年にチェコ事件があり、また 1993 年にはスロバキアとの分離によって現在のチェコになっています。

朝ドイツのミュンヘンを発って、前の立寄り地レーゲンスブルクからドナウ川周辺等の災害通行止めを大きく迂回してやっと辿り着き（昼食も 16 時頃に）、さらにその夜は北へ約 180km のプラハ泊の予定で、ゆっくりとした観光はできませんでしたが、それでも立寄った甲斐はありました。チェスキー・クルムロフで面白かったのは、建物の壁の装飾・だまし絵です。ヨーロッパの他の都市でも、レンガ造りの建物の最下階のみ外装で石造に見せているものは多数見られます。銃弾痕などで下地が出ていて石造でないことが分かるものもありました。ここでは遠目には全て凹凸のある石の組積造に見えるものが、近づいてみると壁は平滑で塗装で描かれているものでした。これだけ「だまし絵」が街中や城にあるのは見たことがありません。太陽の位置によっては縦方向の「陰」が不自然なこともありました。また組積造に設けた窓ではなく、いかにも「窓回りに絵を描いたらしい」と見受けられるところもありました。窓自体がだまし絵のものもありました。





16世紀からチェスキー・クルムロフ城の堀の中で熊が飼われていたとのこと。途中抜けた時期もあるようですが、このときも飼われていました。熊といえば今年の日本国内での出没は異常ですね。出没は例年の2倍のところもあり、人的被害は過去最多ペースとのこと。車に向かって来る映像や衝突するものもTVで流れました。新幹線との衝突、ランニング中に襲われたとか、ガラスが割られて家屋に入られた例もあります。果樹や畑の農作物のみでなく、養鶏場での被害もです。街中で餌を得たものは人間を怖がらなくなり、子連れであれば子熊はそのように教育されてしまいます。数年前から街中に出没しだした子熊が成長しているとか、熊の生息数が20世紀末から5倍になった（縄張り争いで市街地に押出されている）との説もあります。駆除の報道がある都度、その行政庁は非難電話対応に追われているようです。非難する方々は、自宅庭先にマムシが棲み着いても、玄関先にスズメバチが巣を作っても、駆除はしないのでしょうか。網戸は使っても殺虫剤や蚊取り線香は使わない、蚊に刺されても叩かないというのであれば「首尾一貫」といえるのかも知れませんが、さて如何でしょうか。法改正で9月から市街地での猟銃使用が、警官の了解を得なくても市町村の判断で可能になりました。



マンホール蓋の MESTO=市、装飾看板の VINA'RNA=ワインバー、KONVICE=ケトルとのこと。残念ながらこのときは、ワインバーに立ち寄るような時間はありませんでした。 (写真撮影 2013.06.09)

< Google マップ参照 >

URL は、下の「PDFはこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

チェスキー・クルムロフ <https://www.google.co.jp/maps/@48.8130997,14.3161404,14.78z>

プラーシュトヴィ橋 <https://www.google.co.jp/maps/@48.812587,14.3125145,18z>

聖ヴィート教会 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8102135,14.3158787,19z>

聖ヨシュト教会 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8119264,14.3164017,21z>

モナステリー修道院 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8130758,14.3186823,19z>

セミナルニー庭園 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8106608,14.3171708,20z>

スヴォルノスティ広場 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8107284,14.3148521,18z>

ラゼブニッキー橋 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8118428,14.3156826,21z>

城の熊の堀 <https://www.google.co.jp/maps/@48.8127393,14.316032,20.45z>

レーゲンスブルク <https://www.google.co.jp/maps/@49.0204858,12.0818608,12z>

プラハ <https://www.google.co.jp/maps/@50.1207505,14.4181721,11z> (2025.09.01)